

わたしの映画祭

～学生スタッフの声～



◆チームワークの大切さを感じた

「学生管理」を担当した。最初は何をやらばいいかわからず、みんなと混ざって行動をしていた。先輩方のテキパキとした対応や熱心な姿に、じっとしてはいらなくなり、自分の役を把握し、先輩にひつつき行動した。その中で目上の人との接し方、みんなへの気配り、優先順位の仕方などを学んだと思う。チームワークの良さも感じる事ができた！今回は指示を受けるばかりで、あまり考えず行動していたが、次の行事は自ら行動できるようになりたい、と強く思った。先輩方には感謝をしている。(1年・金子桃佳)

◆挨拶でつながる

貴重な経験ができた3日間だった。私は初めて短編映画に触れた。ゲストのハン・ジエ監督と、映画上映前に打ち合わせをした。APUの韓国人留学生に通訳してもらいながらの打ち合わせだ。私は、ハン・ジエさんに「アンニョンハシムニカ」と言おうとした。その前に、ハン・ジエさんが「こんにちは」と言ってくださった。私は挨拶一つでも、緊張したのに、ハン・ジエさんは初対面の私に対しても、日本語で躊躇なく挨拶。そのことがとても嬉しかったし、すごいなと思った。(1年・櫻井奈菜子)

◆後輩の雄姿を

私は動画班として活動した。ゲストの撮影はもちろん、スタッフの準備する風景やお客さんの来場する姿をカメラにおさめた。撮影リーダーと共に、インタビューをして走り回った。この3日間は、実に充実した日々だった。1年生の2人も初めはなかなか上手く撮れずにいたが、2日目、3日目になるにつれて、撮る時間も撮り方も上達していった。来年の別府での映画祭では、1年生の雄姿を見て、今回の映画祭を思い出したいものだ。(2年・鎌田麻衣)

◆やりがいのあった3日間

どんなに計画を立てても、確認をしても、ハプニングの連続。とにかくバタバタだった。「学生管理」担当として他の学生スタッフへの指示、地元のスタッフのみなさんとの連携、お客様への気配り…。全てを把握し、動くことは簡単ではなかったが、とてもやりがいがあった。スタッフ、ゲスト、お客様、たくさんの方がいたから、映画祭は成り立つものだ実感した。(2年・佐藤明日美)

◆人柄の良さに助けられた

普段経験することができないような貴重な経験をする事ができたと思う。韓国の俳優さんや監督の方々と交流する事ができたり、近藤一彦監督の担当をさせて頂くことになったり、初めての経験で戸惑うこともあった。先輩方が親切に指導してくださったし、みんなが頑張っている姿を見て、3日間頑張る事が出来た。近藤監督の人柄の良さにも助けられた。今回の経験を、これからの学校生活でも活かしていきたい。(1年・川上真央)

◆映画に興味を持った

私は「静止画」担当だったため、ずっと会場の中を見る事ができた。やはり一番盛り上がっていたのは、イ・ミンギさんが登場したときだ。生でイ・ミンギさんを見る事が出来て嬉しかった。映画祭では、映画がどのように作られているのかを詳しく聞くにつれ、映画にすごく興味を持った。別府の映画祭でも、いろいろな人の話が聞けそうなので楽しみにしておこう。いい経験になった。(1年・久保加奈子)

～学生スタッフひとこと集～

- 上映係。短編なので会場から離れられなかった(小坂由真)
- 司会をやり終えた。自分にもできるんだ(長田莉歩)
- ネット管理。機器が変になったり、細かいトラブルが多発(山下娑世)
- 会場係。地元のスタッフの作業ぶりが参考になった(山元泰幸)
- 屋外でのグッズ販売。寒さに参った(中村優伽)
- とりあえずやり切ってみる！
くじけそうになってる自分がいたら、そう言いたい(井上千嘉)
- 「来年も楽しみにしています」その言葉で疲れが吹き飛んだ(赤池すずか)
- 『ブラザーフード』を見た。私たちは歴史を知るべき世代なのだと感じた(中川響)
- 日本と韓国、それぞれ独特の考え方を持っていることを発見した(太田有里紗)
- 私の映画祭は終わらない。今からが動画編集の本番(森本愛里)
- U-STREAMのカメラ担当。近くでゲストの会話を聞いた(内田共香)
- おばさま達の熱狂ぶりに驚いた。真剣に警護をした(井上舞華)
- 2年生。後輩を指導する立場の責任を感じた(吉弘梓)
- 先輩たちを見て、リーダーシップの大変さを感じた(丸野由貴)
- 自分の仕事を責任持ってやり通す。その大切さを実感した(青山ひかる)
- 最後までやり通した。友達の支えがあったから(高橋咲)
- 私も上映班。地味な仕事だけど大変だった(村井安里)